

したので、これまでに計132種のもが本県下から知られていることになる。

今回、高橋寿郎氏が環境調査の際、三木市細川中で得られた微小なコメツキムシ若干の同定を依頼されたが、これには2種のもが含まれ、いずれも兵庫県下未記録のものであるので報告するものであり、種名等は下記の通りであるが、これからも微小種、特にミズギワコメツキ亜科に入るものから未記録種、あるいは新しいものが相当発見される可能性があるものと思われる。

終りに度々にわたり貴重な資料をお送りいただき、又本誌に発表する機会を与えられた高橋氏に深く謝意を表すものである。

Quasimus (Quasimus) jissunboushi KISHII, 1966

ケンチビマメコメツキ, 4 exs

Quasimus (Quasimus) kyotoensis KISHII, 1966

キョウトチビマメコメツキ, 4 exs

何れも三木市細川中、1985年7月11日、高橋寿郎氏採集品である。標本は筆者が保管している。なお前者はこれまで京都、岡山両県下から記録があるのみで、後者は分布が広く石川、愛知、京都、奈良、和歌山、岡山、高知、福岡などから得られている。

ミヤコアラハダチャイロコメツキ 宝塚に産す

岸 井 尚

1985年11月の下旬頃宝塚の方からお電話を頂戴いたし、高橋寿郎氏からの紹介でコメツキムシの同定をしていただきたいが、この12月15日に大阪長居自然科学博物館での甲虫学会に持参しますから宜しくとの事で、当日お会いしたのが新家 勝氏であった。同氏持参の標本は10数頭のもので灯火によく集まる、いわば普通種であったが、中に1頭大変な珍種が入っていたのに驚いた。小生が1969年に記載した *Ectamenogonus miyako* ミヤコアラハダチャイロコメツキと思われる新鮮な個体が台紙にのっていたのであるが、見た瞬間 *miyako* と判ったが、念の為帰って詳細に検鏡した所間違いなかったが、小生としては初めてみる雄の個体であった。生殖器は近似のアラハダチャイロコメツキ *E. rugipennis* と比し側片先端部が明瞭に長三角形で明らかに異なっていた。

この種は筆者が記載して以来長く再報がなく、最近保育社から出版された“原色日本甲虫図鑑(Ⅳ)”のp.72, Pl.13, fig.2に原色図が紹介されたが、データ記録はみられないもので、当日参会された渡辺昭彦、有本久之両氏と共に本種について話題にしていた所へ、出現したもので皆一様に驚いたも

のであった。

基準標本は昭和37年8月21日、京都東山の南端日吉神社附近の電灯に飛来したものを当時高校生であった楠亀 稔君が採集し、当時夏期生物宿題に昆虫標本作製があり提出されたものに混入していたものと記憶している。本属は暖地性のグループで、集光性の強いものが多いようで、本種は平地性、かつ5~8月と出現期間が長いので気をつけたら案外広く分布しているものかも知れない。

なお、今回の標本の採集データは下記の通りである。

雄、兵庫県宝塚市武庫川町、宝塚大橋、電灯、1985年5月28日、新家(ニイノミ)勝氏採集。(標本は筆者所蔵)。

終りにこの貴重な種を採集され、快く御提供下さった新家 勝氏ならびに、同氏を紹介された高橋寿郎氏には深い謝意を表したい。

ヨコヅナサシガメ兵庫県南部の記録

森 田 真 澄

ヨコヅナサシガメの兵庫県下の分布記録は高橋寿郎氏に依り集成されている(きべりはむし、9巻、1号、P. 18~20, 1981)。此の報文を閲覧しても播磨地方の産地が少ない。これは調査不足に過ぎないのではと思ひ、1985年の秋季、努めて大木に目を付けて調査したところ6ヶ所の産地を発見したので以下報告する。

◎ 神戸市北区淡河町論破山 2-Ⅸ-1985

サクラの木の地上1.5mのところの有る深さ3cm程度の凹部に二十数頭の幼虫の群が存在した。群になっているところに脱皮殻10個程があった。このサクラは既に枯れていた。

◎ 三木市伽耶院 9-Ⅸ-1985

サクラの木の地上1.6mのところの凹部に十数頭の幼虫の群が存在した。蛾の幼虫をそろりそろりと追い掛けて行き腹端に口吻を突き刺している個体も目撃している。

◎ 加古川市八幡町八幡神社 22-Ⅸ-1985

クヌギの大木(幹周り2.5m、樹高16m)の地上1.8mのところのひび割れ部に脱皮殻とともに29頭の幼虫が存在した。他の木も探してみると幹周り1m樹高10mのアラカンに2頭(地上1.5mの樹皮のくぼみ)、幹周り1.4m、樹高9mのクヌギの木に2頭(地上1.2m)見